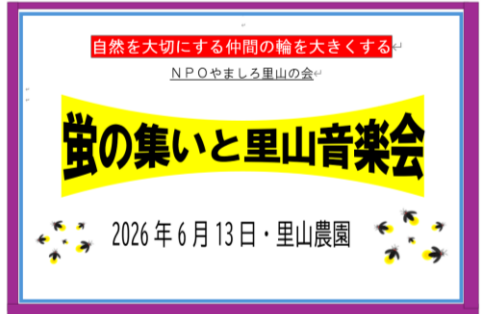


● 蛍の集いと里山音楽会 6月13日



梅雨の中休みの雨の無い曇り空が続きました。このような天気の中、京都市に続いて京田辺市も30度をこえる真夏日を記録したといわれていました。朝からは里山農園の作業日で夕方からの準備を兼ねて皆さんが頑張って用意を整えました。

ご参集されたのはホームページで知ったという大阪府高槻市から親子4人や同じくホームページで申し込まれた方々に加えて飛び込み参加者とスタッフを加え27人でした。

観察棟に登りエノキの上から説明を聞きました。定刻16時半に開会宣言の後、自己紹介が行われ愉快的な仲間の輪が出来上がり教育棟や観察棟、周遊通路周辺で昆虫観察をしました。10号地は下草が除草されていたのでそこでサッカーボールを蹴り、存分に自然を楽しんでいた姿が印象的でした。導入の自由時間が過ぎた頃、紙飛行機折りが提案され、思い思いの紙飛行機を折りました。大いに工夫を繰り返し、うまく飛ばすコツをつかんだ頃

ホタルブクロ



6月/飛翔 5日~7日 交尾 雄が光を出して雌と合おう 水しか飲まない  
産卵 500~1,000個  
7月 孵化  
8月 幼虫 約9か月間 水中でカワニナを食べる 1匹で20~30火を食べる  
5月 サナギ 菌を作り 約40日を暮らす  
光り方は日本の北と南で違う  
世界で2000府がいる この辺りでは ゲンジ螢 へいけ螢 ヒメ螢、へいけだ多い

**なぜ光を出せるのか** おしりに近い部分には、黄色に「発光器」というものが  $vh&jkl$ 、あります。その中には「ルシフェリン」という発光する物質（ぶっつ）と、発光するのを助ける「ルシフェラーゼ」という「こう素(そ)※」があります。この2つの物質とホタルが体の中にとりこんだ酸素(さんそ)が反応をおこして光を出す。  
参加者募集中 夏の昆虫観察会7月4日 夜の昆虫観察会7月25日 申し込みください・里山の会



キジューバンドの熱演が続きました



教育棟の高台から子どもたちのほとんどが飛ばしました。手から離れるとすぐに旋回するもの、まっすぐ降下するものや、ゆっくり降りて来る滞空時間の長いものなど様々な飛び方がありました。子供たちは急斜面を元気よくかけ下りたり登ったりと紙飛行機を飛ばしてよく遊んでいました。18時に夕食の時間とされていたので、持参の弁当をウグイスのさえずりを聴きながら楽しみました。この時間帯には沖縄三線バンドサークルが楽器の調整など出番の準備中でしたので賑やかな夕食時間となりました。夕闇が迫ってきた19時~キジューバンドが福田さんの元気な歌声で始まり工夫を凝らし

たプログラムで約 60 分間引き込まれました。ホテルが飛翔する時刻に合わせて場所を炭焼小屋付近に移動して蛍の飛翔を待ちました。この日の暑さは蒸し暑さがなかったのですが期待していたほど蛍の飛翔は弱く少し残念な状況でした。スタッフの皆さん朝から準備を進めていただきましてありがとうございました。



紙飛行機を折りました



お父さんとノコギリクワガタを見つけました



### ●木曜日の作業について 6月11日(木)

木曜日のパソコン教室はまず週刊ニュースの校正から始まりました。この日のために播川さんが一足早起きをして美味しいコーヒーと茶菓子を準備してくださり、10時過ぎの一息の休憩が楽しみになっています。そして小川様に原稿をお渡ししてさらに編集に力を入れてホームページに公表となります。1000号を先日記録したと思っていたら1140号になっていました。原稿が手直しされた頃、京都新聞社の記者の後藤様が取材に来られたので吉村君の手によって京田辺市で最初のオオムラサキの取組の説明をお話させていただきました。後藤さんは京田辺市に赴任されて2年になるそうですが来所は初めてでした。取材の後に吉村君本人に対する取材時間などを打合せしました。掲載される記事に期待しています。11時になるころ数件の週刊ニュースを戸別配布担当している森島さんが来られ、出来上がったところを受け取って配布に出かけていただきました。原稿チェックは太田さん、播川さん、金田さんの常連の顔ぶれで奮闘を続けています。そして正午前に作業が終わり三々五々に帰宅されました。ここから小川様が14時頃まで会計事務処理の作業をこなしていただいています。この間を昼食時間として休憩して鋭気を養います。現在は30年記念の集い案内のハガキの戻りが多数返ってきていますので会員名簿の整理に集中します。しっかり集中しているつもりで作業を進めていますが10名分を整理すると集中力がきれてきます。この繰り返しを何度も何度も行わなければなりません。若かった頃はこの程度の作業はすんなりこなす事が出来ていたのですが、今の自分にはかなりつらい継続作業になってきています。

### ●岐阜県安八郡輪之内町教育委員会の学芸員の浅野哲夫さんが、町の博物館に里山の会のホームページでヒントをつかんだ竹蛇籠の現物を設置しようと思いついて製作指導の依頼のために来所されました。 6月17日(水)

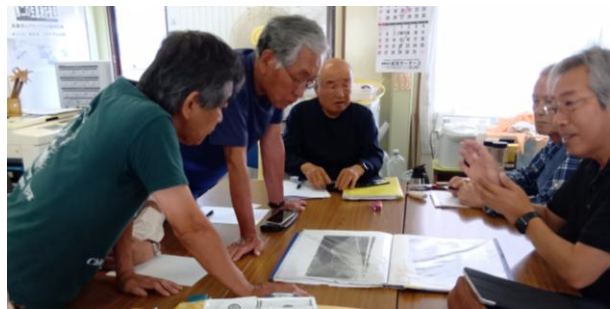
以前の輪之内町では大きな川があって洪水が悩みの種でしたが竹蛇籠で川の土手を守ってきた歴史が写真に記録されています。多くの皆さんにこうした写真だけでなく現物を展示して先人の苦労を学んでいただく資料として取り組んでみたいとのことで依頼にお越しになりました。この写真この残されている写真から見ると百本以上の蛇籠が使用されている物凄い写真でした。私たち里山の会では竹蛇籠の製作をしているだけでなく、出来る限り普



町の様子を説明される浅野さん

及宣伝が出来ないものかと心を砕いてきました。今回の依頼は待ち望んできたことでありましたので出席者（森島・有田・播川・太田・野村・山村）は否応なく協力しましょうとなり、早速11月21日

（土）を幹部研修会の予定日を使うことで浅野さんと合意できました。輪之内町では約30人の皆さんが講座に参加されているとのお話もありました。雨天の場合も作業が可能だそうです。9月26・27日に予定している府立植物園での蛇籠製作講習会に都合がつくようであれば事前練習として参加されると良い経験になりますよとお勧めをしておきました。



身を乗り出して説明を聞きました

六月に咲く木津川の花



カワラサイコ



セイバンモロコシ



ワルナス

# 夏の昆虫観察会

## 7月4日（土）

里山農園付近ではできるだけ自然環境のままの状態を保っていますから、様々な生き物が観察でき、バッタ カエル トカゲなども草むらでうごめいています。甲虫はノコギリクワガタを中心にたくさん生息しています。

国のチョウと指定されているオオムラサキの生育調査を、里山の会は20年以上継続してきました。そのような中、直接、葉にとまったオオムラサキの幼虫の姿を観察できる観察棟（高さ3m）を建設し調査をしてきました。10年前には教育棟として4m×10mの屋根を建設し、冬のオオムラサキ越冬幼虫調査で活用しています。

調査を初めて20年間以上が経過しましたが、オオムラサキの成体（飛翔）を確認できたのは4回でした。

今年中学生がオオムラサキの幼虫を里山農園で発見しましたから、この里山周辺で成虫が飛翔していることは事実でしょう。この夏、国蝶オオムラサキが確認できることを期待しつつ、里山に生きる野生生物の採集観察会を開催いたします。

当日は、午後から生駒山でのオオムラサキの飛翔観察会を実施します。2年間オオムラサキの飛翔が頻繁に確認できました。参加を希望される場合はお知らせください。

集合 9時30分

場所 里山農園 里山農園 普賢寺 水取菰谷 普賢寺小学校から南400m

指導 桜谷保之 元近畿大学教授

指導スタッフ 野村治（里山の会理事 昆虫担当） 金田敬（里山の会昆虫世話係）

持ち物 網 ケース お茶 長靴 帽子 水1L

参加費 無料

参加申し込み 事前の申し込み 住所 氏名 年齢学年 電話番号 ➡

子どものみの参加はできません

雨天の場合 警報になれば中止 少雨開催の方向

連絡先問い合わせ 0774-64-4183

プログラム 10:00 開会挨拶 諸注意 自己紹介

10:10 挨拶

10:20 観察開始 農園付近散策

11:40 まとめ・交流

12:00 感想文を書いて解散

希望者のみ

12:30~16:00 奈良県生駒山上遊園地集合 オオムラサキの飛翔の観察を希望される場合は お知らせください



または [fddb257@yahoo.co.jp](mailto:fddb257@yahoo.co.jp)



主催 特定非営利活動法人 やましる里山の会

住所 京田辺市田辺深田 15 電話 0774-64-4183 (f兼)